

第3次千葉県花植木振興計画

令和8年3月

千 葉 県

目 次

1 はじめに	1
(1) 計画の趣旨	1
(2) 第3次千葉県花植木振興計画の位置付け	1
(3) 計画の期間	1
(4) 定義	1
2 千葉県の花植木振興に係る基本方向と主な施策	2
(1) 基本方向	2
(2) 施策の体系	3
3 生産振興対策	4
(1) 高品質・安定生産の推進	4
ア 現状と課題	4
イ 具体的な取組	7
(2) 担い手の育成	9
ア 現状と課題	9
イ 具体的な取組	10
4 流通対策	11
(1) 千葉県の強みを生かした花きの国内流通・販売体制の強化	11
ア 現状と課題	11
イ 具体的な取組	12
(2) 国内需要に対応した植木産地の流通・販売体制の強化	13
ア 現状と課題	13
イ 具体的な取組	13
(3) 県産花植木の輸出促進	14
ア 現状と課題	14
イ 具体的な取組	14
5 需要拡大対策	16
(1) 県産花植木の魅力発信	16
ア 現状と課題	16
イ 具体的な取組	17
(2) 花植木の文化の継承と普及	18
ア 現状と課題	18
イ 具体的な取組	18
6 推進体制	19
(1) 関係団体との連携による推進	19
(2) 他分野の関係者との連携による推進	19
7 品目別の振興方向	20
(1) 切り花	20
(2) 鉢もの・花壇用苗もの類	20
(3) 植木	21
参考 花植木を取り巻く情勢（全国の動き）	22

1 はじめに

(1) 計画の趣旨

本県の花植木の生産は、温暖な気候と大消費地である首都圏に位置する立地条件に加え、生産者の高い技術と意欲に支えられ、花き類の令和5年の産出額は200億円 で全国第2位、植木類の令和3年の出荷額は39億円で全国第2位と、全国屈指の生産を誇る本県園芸農業の重要な部門となっています。

近年、花植木生産をめぐる環境は、担い手の高齢化や後継者不足、燃油や資材の価格高騰による生産コストの上昇、新型コロナウイルス感染症拡大以降の需要の変化等の影響により、厳しい状況にあります。植木では、本県の伝統ある優れた造形技術によって作られる造形樹の生産や、公共や民間用の緑化木、ホームユース用の鉢植木、そして屋上や壁面緑化用植物など、多様なニーズに対応した生産が行われており、造形樹は、本県の農産物輸出をリードする品目となっています。一方、植木需要の低迷、後継者の減少に加え、生産・経営のノウハウや高度な樹芸技術の継承が円滑に進まず、栽培面積は減少傾向にあり、産地の維持が課題となっています。

花植木の需要に関しては、若い世代の花植木離れや、正月など季節の行事に合わせて花植木を飾る伝統行事の縮小など、生活空間の中で花植木を飾る習慣が失われています。花植木は、暮らしを彩り、安らぎや癒やしを与えてくれるものです。花植木を育てることで命の大切さを感じられ、私たちに喜びや楽しみを与えてくれます。また、生け花や植木の造形技術などは、我々が世界に誇れる花植木の文化であり、これらを継承し、振興することは、花植木の需要拡大や心豊かな生活の実現につながります。

さらに、本県は日本の玄関口である成田国際空港を擁しており、海外からの多くの来訪者に対し、花植木によるおもてなしや文化を発信することで、新たな需要が期待できます。

このような中、国は平成26年に施行された「花きの振興に関する法律」に基づく「花き産業及び花きの文化の振興に関する基本方針」（以下「基本方針」という。）を令和7年4月に見直しました。

本県においても国の基本方針に即し、花植木産業を更に発展させ、花植木の文化を振興していくため、「第3次千葉県花植木振興計画」を策定しました。

計画の実行に当たっては、生産者や流通業者、小売業者、生け花等の伝統文化関係者、行政が連携し、花植木業界が一体となって取り組んでまいります。

(2) 第3次千葉県花植木振興計画の位置付け

この計画は、「花きの振興に関する法律」第4条に規定される県計画として位置付けるとともに、令和2年12月に策定した「第2次千葉県花植木振興計画」の取組や国の基本方針を踏まえ策定しました。

(3) 計画の期間

この計画の期間は、令和8年度から令和12年度までの5年間とします。

(4) 定義

「花き」とは、観賞の用に供される植物をいい、切り花、鉢もの（鉢花、洋ラン類、観葉植物、盆栽等）、花木類、花壇用苗もの類などのことをいいます。この計画では、「花き」を「花き類」と「植木類」として表記しています。「植木類」とは、住宅や工場、オフィスビル等の民有地、街路・公園等の公共空間に植栽される樹木をいいます。

2 千葉県の花植木振興に係る基本方向と主な施策

(1) 基本方向

「花植木産地の強化・発展」と「花と緑のある心豊かな暮らしの実現」

を目指し、次の3つの項目の施策を実行し、花植木の振興を図ります。

○稼げる農業を目指し、産地の生産基盤の強化による高品質・安定的な花植木生産と産地の維持発展

○首都圏に位置する立地条件を生かした流通販売体制の再構築と県産花植木の国内外への販売促進

○県産花植木の魅力発信及び文化と伝統の継承による需要の拡大

【数値目標】

花き類産出額

現状（令和5年）	200億円	⇒目標（令和12年）	210億円
切り花	116億円	⇒	122億円
鉢もの・花壇用苗もの類	79億円	⇒	82億円

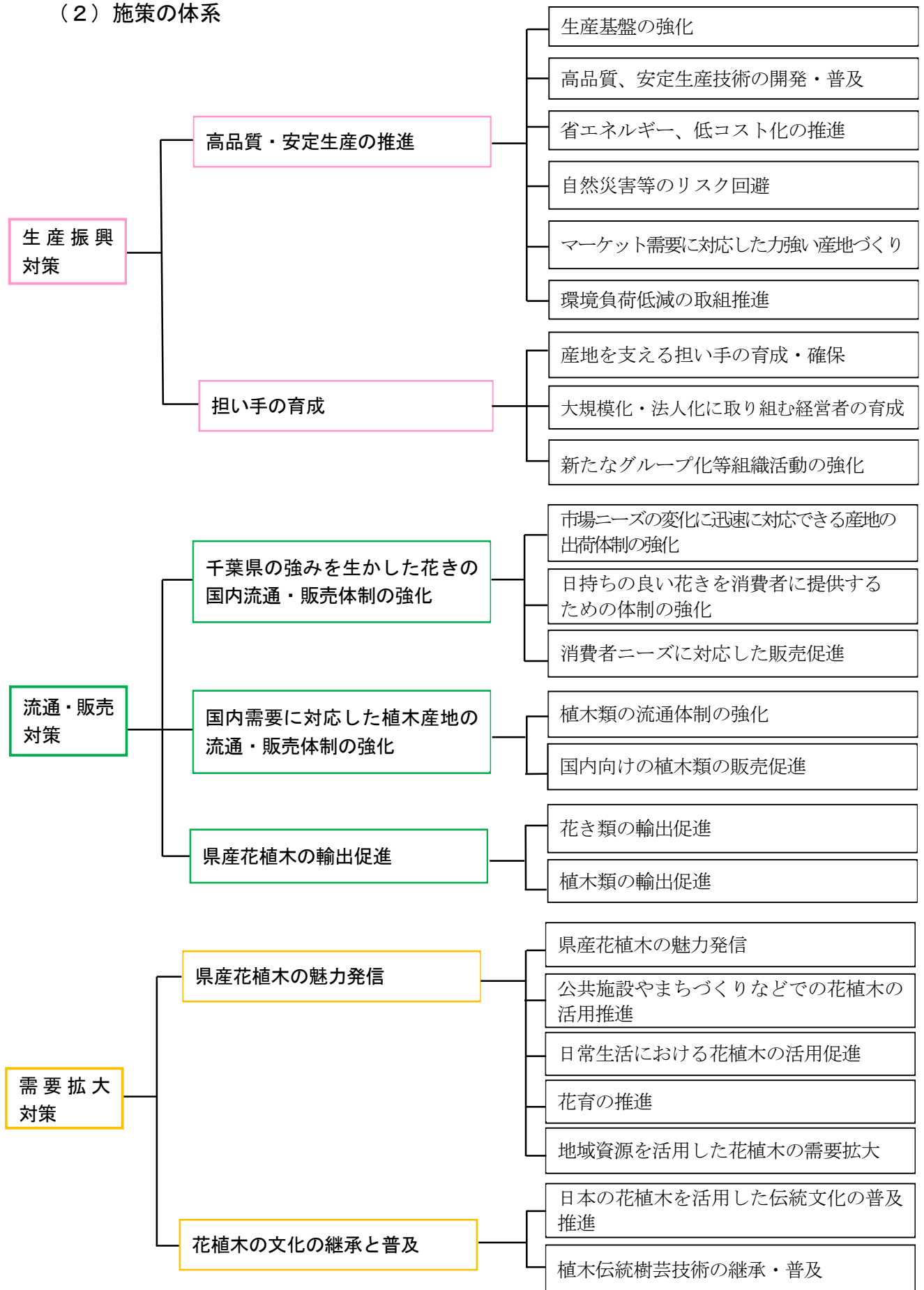
植木類出荷額

現状（令和5年）	45億円	⇒目標（令和12年）	58億円
----------	------	------------	------

【達成指標】

	項目	現状（令和5年度）	目標（令和12年度）
生産振興対策	ビニールハウス等施設整備面積（補助事業で整備する面積）	1.1ha	5.0ha（延べ面積）
	スマート農業技術導入件数（補助事業で導入する件数）	—	20件（延べ件数）
	認定農業者数（法人）	53経営体	58経営体
流通・販売対策	県産花き類の輸出額	4百万円	22百万円
	県産植木類の輸出額	11.7億円	30億円
	共選共販やグループ化による流通体制の再構築	—	1件
	商談会の参加・開催回数	—	5回（延べ回数）
需要拡大対策	生産者と実需者が連携した意見交換会・研修会の開催回数	—	10回（延べ回数）
	「2027年国際園芸博覧会」開催を契機とした県産花植木の展示、PR、魅力発信	—	5回（延べ回数）

(2) 施策の体系



3 生産振興対策

(1) 高品質・安定生産の推進

ア 現状と課題

【花き類】

本県における令和5年の花き類の産出額は、200億円（前年比101%）、作付面積は611ha（前年比99.2%）で全国第2位の生産県となっています。

花き類の産出額のうち切り花類は116億円、鉢もの類は56億円、花壇用苗もの類は23億円となっています。また、作付面積のうち、切り花類は431ha、鉢もの類は76ha、花壇用苗もの類は104haとなっています。

花き類の産出額は、令和2年以降やや増加傾向にありますが、花き類の作付面積は、担い手の高齢化や労働力不足などにより減少傾向です。また、生産基盤となる施設の一部では老朽化がみられ生産性が低下しています。花植木をとりまく環境は、全国の状況と同様に国内需要の減少や、夏季の高温などの異常気象等による品質・収量の低下や需要期の出荷減少、資材等の価格上昇による生産コストの上昇などから、厳しい状況が続いています。

産地を維持していくためには、生産基盤となる施設面積の拡大や、労働力の確保、スマート農業技術の導入などによる生産性の向上に取り組むとともに、暑熱対策が必要となっています。近年増加傾向にある台風や大雪などの自然災害による被害を防止するための施設の強靱化やBCP（事業継続計画）の作成のほか、花きの被害も拡大している有害鳥獣への対策も必要となっています。

また、農業生産による環境への負荷の軽減を図るためには、花き生産においても環境にやさしい農業への取組が重要となっています。令和7年3月現在、花き類におけるみどり認定は進んでいませんが、MPS認定（環境に配慮した花き生産の認証）を取得する生産者が出てきています。

本県の花き類生産は、生産者の育種が盛んなことも強みで、ストックやトルコギキョウ、球根切花、シクラメン、洋らんなど、世界的に評価されている品種が多数あります。近年は花き類の輸出への関心も高まっていることから、国内外での競争力を強化するためにも、マーケット需要に対応した魅力のある品種の育成は有効であるため、生産者育種を支援していくことが重要です。また、新しい動きとして、業務需要からホームユースまで多様化するマーケット需要に対応するため、鉢花栽培施設での切り花栽培など新たな栽培方法、出荷形態、新品目の導入等の取組も始まっています。

千葉県の強み

- ・温暖な気候により、寒冷地に比べ暖房コストを抑えた生産が可能です。
- ・高品質で多様な花き類が生産されています。
- ・生産者の育種が盛んに行われています。

表1 千葉県の花き類産出額の推移

(単位：億円)

	H12	H17	H22	H27	H30	R1	R2	R3	R4	R5
花き類産出額	251	208	191	186	193	174	161	187	198	200
うち 切り花類	164	145	130	115	123	100	86	103	116	116
鉢もの類	48	32	31	42	46	48	48	54	54	56
花壇用苗もの類	34	30	26	21	19	22	23	26	22	23
その他花き類	5	1	4	8	4	4	4	4	5	5

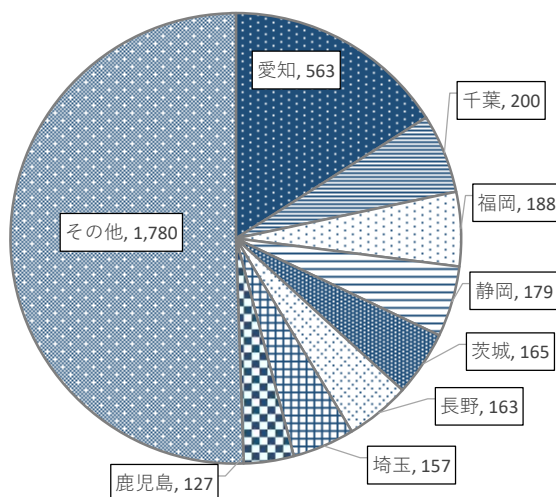
(農林水産省「生産農業所得統計」)

表2 千葉県の花き類作付面積の推移

(単位：ha)

	H12	H17	H22	H27	H30	R1	R2	R3	R4	R5
花き類作付面積	1190	1063	894	835	767	690	662	637	616	611
うち 切り花類	968	830	672	612	547	495	477	452	440	431
鉢もの類	90	93	94	96	95	83	78	76	72	76
花壇用苗もの類	102	130	119	127	125	112	107	109	104	104
球根類	30	10	9	—	—	...

(農林水産省「花き生産出荷統計」、 「—」：事実のないもの、「...」：調査を欠くもの)



(農林水産省「生産農業所得統計」) (単位：億円)

図1 全国の中での千葉県花き類の位置付け (R5年産出額)

表3 千葉県の主な花き類等生産状況 (R5年産)

品目	作付面積 (ha)	産出額 (億円)	全国順位	品目	作付面積 (ha)	産出額 (億円)	全国順位
ストック ※	35.5	6	1	きんせんか ※	13.7	1.6	1
カラー ※	8.1	2	1	きんぎょそう ※	8.5	2.3	1
サンダーソニア ※	1.8	1.2	1	ひまわり ※	16.7	2.5	2
洋ラン (切り花)	5	3	3	カーネーション	16	10	3
スターチス	5	1	4	ガーベラ	9	3	5
切り葉	84	1	5	切り枝	94	14	5
ゆり	26	10	6	トルコキキョウ	12	5	11
パンジー (苗)	10	1	11	観葉植物 (鉢)	13	9	6
洋ラン (鉢)	68	29	4	シクラメン (鉢)	12	4	7

(農林水産省「生産農業所得統計」, 「花き生産出荷統計」、※令和5年産農林水産省統計外調査)

【植木類】

本県の植木生産は、伝統ある優れた造形技術によって作られる庭園用の造形樹の生産や、公共や民間用の緑化木、ホームユース用の鉢植木、そして、屋上や壁面緑化用植物など、多様なニーズに対応した生産が行われています。出荷額は約39億円（令和3年）で全国第2位、栽培作付け面積は483ha（令和3年）で全国の約17%を占めています。

生産品目では、九十九里沿岸の比較的温暖な地域で、イヌマキやマツ類をはじめツゲやキャラボクなど常緑樹が中心に生産され、印旛地域などの内陸では、コニファー類をはじめとする常緑樹から落葉樹まで幅広い樹種が生産されています。

しかし、植木需要の低迷、後継者の減少に加え、生産・経営のノウハウや高度な樹芸技術の継承が円滑に進まず、栽培面積は減少傾向にあり、産地の維持が課題となっています。また、主力品目であるイヌマキはケブカトラカミキリの被害が発生しており、広域的・継続的な防除が必要となっています。

加えて、生産コストが上昇傾向にあるため、ほ場の集約化や自動かん水施設、低コスト耐候性ハウスの導入、機械化、スマート農業技術の活用などにより、生産コストの削減や省力化が必要です。また、夏季の高温などの異常気象等により植木苗の生産が不安定になっています。

輸出については、造形樹が本県の農産物輸出をリードする品目となっており、輸出先は東南アジアが中心となっています。しかし、輸出先国によっては、特定品目の取引禁止や検疫条件の変更など輸出に対する規制が強化されています。そのため、新たな輸出先国の開拓など、輸出の拡大と安定に向け、輸出相手国の検疫体制に対応したセンチウ防除技術の確立と、需要に合わせた継続的かつ効率的な生産体制の整備が必要となっています。

また、植木は、栽培期間が長く生産のロスが発生しやすいため、マーケット需要に合った計画的な生産も課題となっています。

本県の植木の更なる生産振興を図るためには、国内外の幅広いニーズに応える新品種の育成や優良系統の選抜・保存、安定した販路の確保など、生産から販売までの一貫した取組支援が必要です。

表4 千葉県における栽培面積の推移

(単位:ha)

	H30	R1 ※	R2 ※	R3	R4 ※	R5 ※
1位	福岡 674	福岡 590	福岡 572	福岡 579	福岡 555	福岡 554
2位	三重 568	三重 564	千葉 464	千葉 483	鹿児島 495	千葉 427
3位	千葉 520	千葉 488	鹿児島 406	鹿児島 476	千葉 455	鹿児島 425
4位	鹿児島 484	鹿児島 445	三重 387	三重 301	三重 300	三重 321
5位	愛知 331	愛知 293	愛知 288	愛知 218	愛知 178	東京 166
全国	3,460	2,777	2,464	2,909	2,310	2,179

(農林水産省「花木等生産状況調査」、※抽出調査(主要県調査)のため参考値)

表5 千葉県における出荷額の推移

(単位:百万円)

	H30	R1 ※	R2 ※	R3	R4 ※	R5 ※
1位	千葉 5,190	福岡 4,070	福岡 4,004	福岡 4,211	千葉 4,663	千葉 4,537
2位	福岡 3,945	千葉 4,037	千葉 3,812	千葉 3,893	福岡 4,250	福岡 4,093
3位	愛知 3,087	愛知 2,824	愛知 2,839	愛知 2,313	三重 2,082	三重 2,195
4位	三重 2,219	三重 2,215	三重 2,838	三重 2,210	愛知 1,883	愛知 1,614
5位	鹿児島 702	鹿児島 610	鹿児島 554	埼玉 729	鹿児島 624	鹿児島 551
全国	18,981	14,586	14,701	16,764	14,276	13,716

(農林水産省「花木等生産状況調査」、※抽出調査(主要県調査)のため参考値)

表6 千葉県の植木生産における栽培農家数の推移

(単位：戸)

	H30		R3	
1位	福岡	1,742	福岡	1,564
2位	愛知	1,639	愛知	1,297
3位	千葉	1,190	三重	832
4位	三重	1,081	千葉	808
5位	埼玉	696	鹿児島	412
		8,382		6,685

(農林水産省「花木等生産状況調査」)

イ 具体的な取組

① 生産基盤の強化

- ・低コスト耐候性ハウスの導入や、老朽化した温室のリフォーム、露地栽培でのかん水施設の導入など施設整備を推進します。
- ・輸出用植木では、植物検疫に向けた隔離栽培の効果を発揮できる施設整備と管理体制の構築を支援します。
- ・労働力不足を補うため、外国人材や農福連携の取組など多様な人材の活用を推進します。

② 高品質、安定生産技術の開発・普及

- ・高品質、安定生産及び需要に合わせた生産を実現するため、データ駆動型農業技術などのスマート農業技術の導入・普及を推進します。
- ・近年の気候変動及び夏季の高温による高温障害、開花期の前進・遅延、生育不良などの生理障害や、スリップス類等の微小昆虫や土壌病害などの病虫害発生を回避・軽減するため、暑熱対策技術及び病虫害防除技術の開発・普及に取り組みます。
- ・有害鳥獣による被害を軽減するため、物理柵設置等の対策を推進します。
- ・植木に被害をあたえるケブカトラカミキリなど、難防除病虫害の防除技術を開発・普及します。

③ 省エネルギー、低コスト化の推進

- ・燃油価格高騰の影響を軽減し、コスト削減による経営の安定化を図るため、ヒートポンプの導入などによる省エネルギー型施設への転換、セーフティーネットの構築を支援します。

④ 自然災害等のリスク回避

- ・近年多発する自然災害のリスクを回避するため、災害に強い施設への転換・改修を推進するとともに、マニュアルによる保守点検、施設や機械等の整備実施、BCP（事業継続計画）の導入を促進します。
- ・自然災害や花きの価格下落等のリスクに対して、園芸施設共済や収入保険への加入を促進します。

⑤ マーケット需要に対応した力強い産地づくり

- ・多様なマーケット需要に対応するための、新たな栽培方法、出荷形態、新品目の導入など推進します。
- ・物日などの実需者ニーズに対応した計画的な生産体制の確立を支援します。
- ・多様なニーズに対応するため、県特産品目の育種に取り組み、有望品種の選定、原種や原々種の配付を行います。また、生産者が行う育種や育成品種を維持・増殖するための技術に関する情報提供、育成品種のリスト化などを行います。
- ・維持に必要な技術の伝承など、高齢化等により栽培面積が減少している本県特産品目の産地維持や有望育成品種の維持に向けた取組を支援します。

⑥ 環境負荷低減の取組推進

- ・花き生産による環境への負荷の軽減を図るため、適正施肥の指導やみどり認定の促進による環境にやさしい農業を推進します。また、適正な生産工程管理を推進します。
- ・地域環境の保全と施設園芸農業の継続的な発展を図るため、生産により発生する廃プラスチックなどの適正処理を推進します。

《関係者に期待される役割》

関係者	期待される役割
生産者	・生産施設の整備及び再整備 ・先端技術の積極的な導入 など
農業団体	・研修会の実施 ・園芸施設共済や収入保険への加入促進 など

(2) 担い手の育成

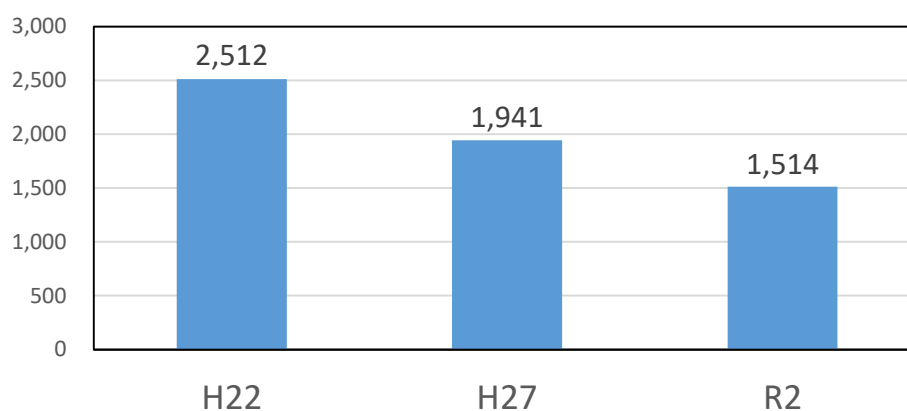
ア 現状と課題

本県の花き類の販売農家数及び農業従事者数は、全国と同様に近年減少傾向にあります。経営体の平均販売額は、1,000～3,000 万円で、中には販売額 5,000 万円以上の経営体も存在しています。

また、本県の花き類の生産は、安房地域や君津地域、山武地域などの農協等による共販産地と、企業的経営体などを含む個人出荷者により担われています。

共販産地の担い手は、家族経営が中心ですが、高齢化により産地の維持が課題となっています。出荷ロット数を確保し産地を維持していくためには、担い手の栽培管理能力や経営管理能力の向上を図るとともに、新規参入も含めた多様な担い手の確保・育成が重要な課題となっています。

個人出荷者は、県内に企業的経営体から家族経営体まで様々な規模の経営体があります。花き類・花木経営体の認定農業者のうち法人化しているのは令和 6 年 3 月末現在で 53 経営体であり、他の経営部門に比べて法人化の割合は高くなっています。今後の花き経営の拡大に向け、より高い経営能力の習得、雇用導入の支援が重要となっています。また、生産技術の向上や販売力の強化など共通の目的を持った生産者のネットワーク化を支援することが必要です。



(農林水産省「農林業センサス」、単位：経営体)

図 2 千葉県の花き類販売農家数の推移

表 7 千葉県の認定農業者数

(単位：経営体)

	認定数		法人比率
		うち法人数	
単一経営	3,653	557	15.2%
花き類・花木	276	53	19.2%

(千葉県担い手支援課調べ、令和 6 年 3 月)

イ 具体的な取組

① 産地を支える担い手の育成・確保

- ・産地を支える担い手の育成を図るため、若手生産者をはじめ、個々の生産者の課題解決力強化、栽培技術習得、経営改善の取組を支援します。
- ・産地の維持安定に向け、低コスト・省力技術の導入支援や気候変動に対応した安定栽培技術の導入支援、出荷調製作業の分業化など出荷の効率化を図るための取組を支援します。
- ・新規就農希望者や後継者、定年帰農者などに対し、遊休農地や遊休ハウスの活用推進や、離農する経営体の事業を新規参入者に円滑に継承できるよう関係機関が連携し支援し、担い手の確保を図ります。

② 大規模化・法人化に取り組む経営者の育成

- ・国内外の産地間競争に対応するため、スマート農業技術や省力化機械利用など、高度な安定生産技術や省力化技術の導入を支援するとともに、販売・流通に係わる情報を収集し、知識習得することにより資質の向上を図り、高い経営能力の構築を支援します。
- ・専門家派遣による雇用導入に向けた就業規則の作成など、経営改善に向けた支援を行い、経営の大規模化、法人化を推進します。

③ 新たなグループ化等組織活動の強化

- ・競争力の高い産地を育成するため、生産者のネットワーク化、グループ化を図り、生産・販売・担い手育成や商談会の開催など、産地の課題解決につながる組織活動の活性化を支援します。
- ・千葉県花き園芸組合連合会や千葉県植木生産組合連合会など、生産者組織が行う生産技術の研鑽のための共進会や研修会、消費拡大などの取組を支援します。
- ・次代の花き産地を担う若手生産者のネットワーク化により、若手生産者の資質向上や産地強化を支援します。

《関係者に期待される役割》

関係者	期待される役割
生産者	・研修等への参加による農業技術、経営能力の向上 ・共通の目的を持った生産者のネットワーク活動の活性化 ・経営の法人化 など
農業団体	・研修会の実施 など

4 流通・販売対策

(1) 千葉県の強みを生かした花きの国内流通・販売体制の強化

ア 現状と課題

本県産花き類の国内流通に関して、令和5年の東京都中央卸売市場における本県産花き類の入荷量のシェアは、切り花が6.9%、鉢花が10.1%、観葉植物が6.2%、花壇用苗もの類が12.9%を占め、中でも切り花のストック、きんせんか、日本水仙、アイリス及び菜の花等は、50%を超えています。

本県の切り花は、首都圏に位置し、新鮮な花きを提供できるという強みがある一方、個選での出荷が多く販売ロットが小さいことや、輸送時間が短い市場への出荷情報提供の遅れが課題となっています。また、生産者の減少による労力不足や流通コストの増加が問題となっており、出荷調製作業等の軽減や流通コストの削減が課題となっています。

新鮮な花きを提供できる本県の強みを生かし、近年増加している相対取引の対応を強化するためには、市場への出荷情報の提供方法の検討や、規格の統一、技術の平準化に加え、流通に係る効率的な出荷調製作業の検討や販売ロットの拡大が必要です。

また、近年は高温の時期が長期化しており、鮮度の良い花を出荷し有利販売につなげるには、高温時の出荷に対応した予冷施設の活用や産地から消費者まで高品質の花きを提供するためのコールドチェーン化が必要となっています。今後、実需ニーズに合わせて、新鮮な花きを計画的に提供するため、鮮度保持や日持ち保証の検討なども必要となっています。

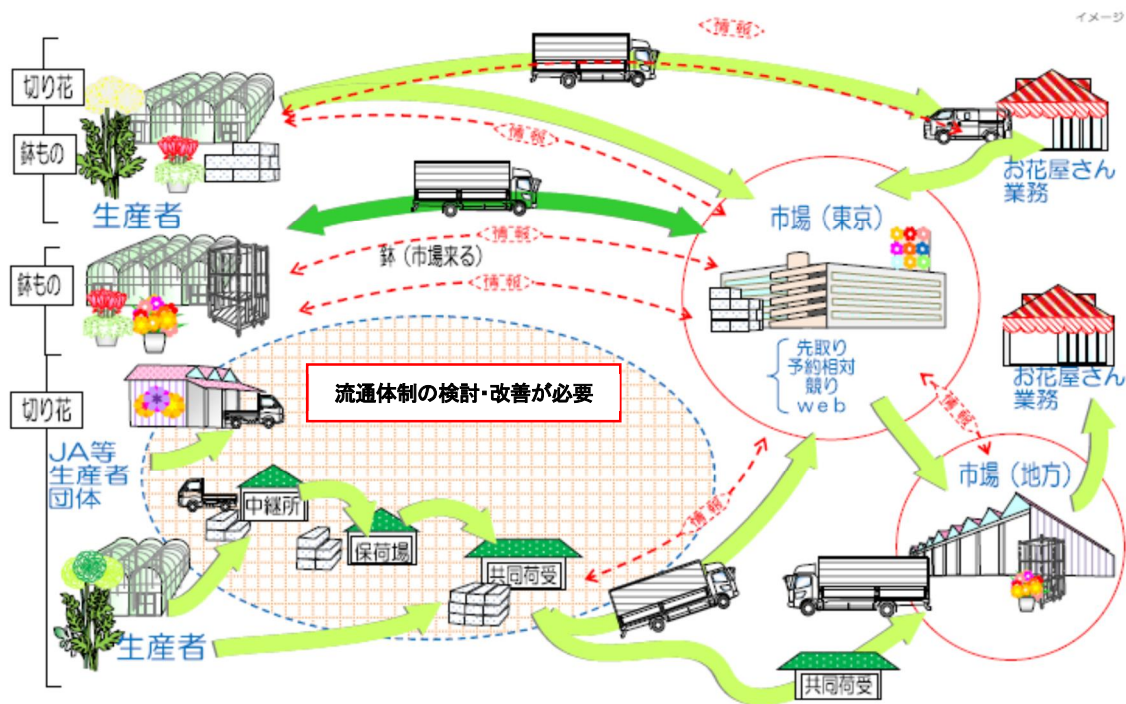
本県の鉢ものは、生産者が点在しており、市場単位の運送会社による個人集荷が行われていますが、ホームセンターなど個別のニーズに合わせた契約出荷も行われています。流通コストの上昇が経営を圧迫しているため、集出荷の共同化によるコストの削減など、効率的な物流体制の構築が課題となっています。

花壇用苗もの類は、ホームセンターなどの市場外流通も増加しており、売り先を見据えた販売促進活動が必要です。

また、新型コロナウイルス感染症拡大以降の需要の変化(冠婚葬祭等の業務需要の縮小、個人需要の増加等)を踏まえ、積極的に県産花き類のPRなどを行っていくとともに、ECサイトの活用等による新たな販売や需要に対応した契約出荷などの検討も必要です。また、本県生産者等が育成した海外でも評価される品種など、本県の魅力ある花きを国内外へ積極的に発信していくことが重要です。

千葉県の強み

- ・市場に近く、市場取引前日の夕方まで出荷が可能で、新鮮な花きを提供できます。
- ・地の利を生かした輸出への対応が可能です。
- ・魅力的な品目や多様な品目が生産されています。



イ 具体的な取組

① 市場ニーズの変化に迅速に対応できる産地の出荷体制の強化

- 産地の競争力を強化するため、品質の均一化や共選出荷体制の検討、共選共販やグループ化による産地の販売ロット拡大の取組を支援します。また、多様な販路・販売方法に対応するため規格の見直しを進めます。
- 相対取引による販売の割合を増加させるため、出荷情報の電子化・早期発信を推進します。
- 予冷施設等の整備による計画出荷のための体制づくりを支援します。
- 流通コストを削減するため、物流会社との連携など、物流を効率化する広域的な集荷システムの構築を検討します。

② 日持ちの良い花きを消費者に提供するための体制の強化

- コールドチェーンや鮮度保持技術の開発・普及を推進します。
- 首都圏に位置する千葉県として産地の優位性を生かした流通方法の改善を支援します。

③ 消費者ニーズに対応した販売促進

- 消費者ニーズの生産現場への反映と新たな販売の機会を創造するため、生産者と卸売・小売業者等の実需者が情報交換できる場づくりを支援します。
- 小売店等での県産花きの産地PR等の実施を支援します。
- 販路開拓に意欲のある生産者の情報収集を行うとともに、ECサイトでの販売を希望する生産者に対し、効果的な販売方法等の伴走支援を行います。

《関係者に期待される役割》

関係者	期待される役割
生産者、農業団体	・ 共選共販やグループ化の検討 ・ 商談会への参加 ・ 物流の効率化 ・ 地域の特性や立地条件に合わせた流通体制の確立 など
市場・小売	・ 流通販売情報の産地への提供 ・ 県産花きの産地PRの実施 など

(2) 国内需要に対応した植木産地の流通・販売体制の強化

ア 現状と課題

植木類の国内需要は、公共・建設関係の大型樹、戸建てなどホームユース用のホームセンター需要に分けられ、国内流通は、セリや相対取引の他、市場を介さずに造園業者との直接取引や直売などが行われています。また、輸送方法としては、最終消費地に自社トラック又はチャーター便での輸送や、ホームユース用の鉢植木のように生産ほ場から販売店舗への宅配便での直送、園芸市場が提携している運送会社による集出荷システムによる流通など、様々な流通形態があります。

住宅建築の様式変化などから植木需要が縮小している一方、急激な温暖化・ヒートアイランド現象に対応するため緑の活用など公共需要は多様化しており、幅広いニーズに対応できるよう計画的な生産が必要です。県産植木を安定的に販売していくためには、業態ごとの需要の把握、流通の合理化が必要であり、生産者のグループ化による品揃えや販売ロットの拡大、商品特性や在庫情報を実需者へ発信することが重要です。

イ 具体的な取組

① 植木類の流通体制の強化

- ・ 輸送コストの削減や輸送時間を短縮するための取組を支援します。

② 国内向け植木類の販売促進

- ・ 公共・建設関係の多様なニーズに応える植木販売促進のため、緑化需要に関する情報の収集や発信、販売促進に対する取組を支援します。
- ・ ホームユース向けには、国内実需者と産地とのマッチングやバイヤーが多く集まる商談会、展示会への参加など、生産者団体などが販路を開拓する取組を支援します。
- ・ 国内実需者のニーズに対応した、計画的な出荷に対する取組を支援するとともに、県が育成した新品種の生産拡大を促進します。

《関係者に期待される役割》

関係者	期待される役割
生産者	・商談会や展示会への参加 ・国内需要に向けた計画的な出荷体制の確立 など
流通関係業者	・産地と連携した国内需要に向けた販売促進 など

(3) 県産花植木の輸出促進

ア 現状と課題

本県の花植木の輸出額（令和5年）は12億円（花き類：4百万円、植木類：12億円）であり、中でも本県の特産である植木は、全国の花植木の輸出をリードする品目となっています。

花き類については、空路での輸出が主であり、成田空港を有する本県の強みを生かせるとともに、品目によっては、販路を海外へ拡大することで、販売価格の安定化、経営の安定化が期待されます。

植木類の輸出は、バイヤーによる直接買い付けや輸出業者を介した取引が行われており、コンテナで船便輸送された後に陸路で輸送される形態が主流です。主な輸出先は、東南アジアが多い状況ですが、相手国の情勢や検疫条件の変更に対応した取組が必要となっています。今後は、リスク分散や新規需要開拓のために、EU諸国や東欧、中東においても輸出を拡大するために、輸出相手国の検疫体制への対応や樹種の需要の情報収集が必要となっています。

イ 具体的な取組

① 花き類の輸出促進

- ・成田空港を有する本県の強みを生かし、相手国のニーズにあわせた切り花の輸出を促進します。
- ・生産者と輸出業者等が情報交換できる場づくりを支援します。

② 植木類の輸出促進

- ・国や関係機関と連携を図り、国外の実需者と産地とのマッチングや、海外バイヤーが多く集まる商談会への参加など、生産者団体などが販路を開拓する取組を支援します。
- ・品質低下を招くセンチウの防除対策など、品質保持技術の確立を支援します。
- ・輸出相手国の検疫条件に対応できる技術開発に取り組むとともに、生産者などが行う生産、流通体制の整備を支援します。
- ・生産者が行う輸送コストの削減や輸送時間を短縮するための取組を支援します。

- ・継続的に植木輸出に取り組み、販路を拡大していくため、輸出相手国のニーズに合わせた樹種の生産など、新たな販路を見据えた計画生産を支援します。
- ・海外における知的財産権の侵害などによるトラブルを防ぐため、生産者などによる輸出国における商標登録の取得を支援するとともに、生産者育種において、誤って権利侵害を起こさぬよう注意喚起に努めます。また、国や関係団体と連携し、輸出に取り組む団体などへの情報提供により、諸外国における本県ブランドの使用を妨げる商標などの出願防止を図ります。

《関係者に期待される役割》

関係者	期待される役割
生産者	<ul style="list-style-type: none"> ・輸出業者等との情報交換、需要マッチング ・商談会への参加 ・輸出相手国に対応した生産、流通体制の確立 など
流通関係業者	<ul style="list-style-type: none"> ・産地と連携した輸出の促進 など

5 需要拡大対策

(1) 県産花植木の魅力発信

ア 現状と課題

若い世代の花き離れなど花の消費が減少している中で、今後、花きの需要を拡大していくためには、心が癒されるなど、花きの持つ様々な効用や県産花きの魅力を発信していくことにより、若い世代などの無購買・低購買層への働きかけを行うとともに、新たな「花の日」の提案など購入のきっかけづくりや、公共施設やまちづくり等での活用促進、花育の普及などにより、日常的に花のある生活の定着を推進することや、SNSの活用等による効果的な需要喚起を行うことが重要です。

本県は、安房地域の直売所や、道の駅、花摘み園などの観光資源が多く、これらを通じた花きの需要拡大に積極的に取り組むことも必要です。

また、季節の行事に合わせて花を飾る伝統行事が縮小している一方、近年は成人式での「花贈り」など新たなイベントの定着とともに花需要が多様化していることから、伝統文化である生け花や季節の行事と一体となった花きの活用を改めて普及させるとともに、消費者のライフスタイルに合った花の活用推進も重要となっています。

本県は、成田国際空港を擁し、国内外から多くの人々が訪れるほか、令和9年には横浜市で2027年国際園芸博覧会が開催されることから、全国屈指の花の生産県である本県の強みを生かした需要喚起が期待されています。

植木の需要では、個別住宅からアパートやマンション等の集合住宅への様式の変化により、植木類の植栽スペースが減少するとともに、植木の管理費用の負担から植栽が敬遠されるケースが増えています。また、公共工事の減少と工事コストの削減から、植木の小型化と卸売単価の低下傾向が続いています。

他方、都市部では、屋上緑化や公開空地の緑化が行われており、植木の需要も期待できます。

このため、生産者から植木の生産情報を実需者に発信するとともに、生産者と実需者（造園事業者、ハウスメーカー等）が連携した植木の需要拡大に取り組む必要があります。また、海外には多数の日本庭園が整備されており、これら庭園の活用による需要喚起も期待できます。

千葉県の強み

- ・安房地域の花摘み、直売、道の駅など花きの需要が見込める観光資源が数多くあります。
- ・大消費地、首都圏に位置しています。
- ・世界に誇れる植木の銘木や伝統樹芸技術があります。

イ 具体的な取組

① 県産花植木の魅力発信

- ・ 県産花植木への理解を促し、需要を拡大させていくため、フラワーフェスティバルや植木まつり等での展示会、見本園の設置などを行い、積極的な県産花植木の魅力を発信します。
- ・ 「2027年国際園芸博覧会」開催を契機とした県産花植木のPR、魅力発信を実施し、県産花植木の需要喚起を行います。
- ・ SNSやホームページ等の活用、観光業界、インテリア業界等との連携による効果的な県産花植木の需要喚起を行います。
- ・ 植木については、生産者と実需者（造園事業者、ホームセンター、ハウスメーカー、工事設計担当者等）との情報交換を実施し、県産植木の魅力発信、需要開拓を実施します。
- ・ 県民はもとより国内外からの来訪者に県産花植木の魅力を発信するため、公共施設や駅などで、県産花植木をPRします。

② 公共施設やまちづくりなどでの花植木の活用推進

- ・ 人を癒やすなど花植木の持つ効用について情報を提供し、理解を促進するとともに、公共施設での花植木の活用を推進します。
- ・ 地域コミュニティにおける、まちづくりを目的とした県産花植木を活用した花の植栽などの取組を推進します。

③ 日常生活における花植木の活用促進

- ・ 日常生活における花植木の活用を促進するため、県産花きの展示や花育活動を通じ、ガーデニングや家庭での花飾りなど日々の生活の中で花や緑に親しむ機会創出の提案を行います。
- ・ 花については、購入のきっかけづくりとして、新たな「花の日」の提案に生産者、流通関係者、販売業者等と連携して取り組みます。
- ・ 夏季の高温が常態化しているため、高温でも安定生産でき、日持ちするなど夏場に強い県産花きの利用を促進します。

④ 花育の推進

- ・ 花きの需要拡大に向け、子どもの頃から花や緑に親しむ機会を創出し、豊かな心を育むため、教育機関と連携し、花育活動を推進します。

⑤ 地域資源を活用した花植木の需要拡大

- ・ 本県の魅力の一つである観光資源としての花摘みなど、地域の特色ある花植木を活用した需要拡大を推進します。
- ・ 景観形成を目的とした花の植栽など、新たな地域の観光資源として期待される花植木を活用した取組を支援します。

(2) 花植木の文化の継承と普及

ア 現状と課題

本県には、正月の日本水仙、千両、彼岸のきんせんかといった花き文化に欠かすことができない花が栽培されており、早春の花摘みなどの独自の花文化があります。また、本県は成田国際空港を擁し、国内外から多くの人を訪れます。伝統文化である季節の行事と一体となった花きの活用を普及させるとともに生け花や日本庭園などの伝統文化の魅力を国内外に発信することで花文化を伝えていくことが重要です。

また、古くから本県で造形され、かつ植栽されているマキ及びマツや世界に誇る造形技術などがあり、一定の基準を満たした植木を銘木に認定することや技術を認証することにより、将来にわたって本県特有の伝統的樹芸技術を保存、継承していくことが必要です。

イ 具体的な取組

①日本の花植木を活用した伝統文化の普及推進

- ・年中行事や五節句など、季節の行事に合わせた花きの活用や、生け花や日本庭園などの伝統文化の魅力を、学校などでの花育や展示会を通して普及推進します。
- ・日本水仙やきんせんかといった、正月や彼岸など季節の行事と密接な関係のある本県特有の花きの魅力を積極的に発信し、花植木を活用した伝統文化や生産技術の継承に努めます。
- ・海外からの来訪者へ県産花植木を活用した生け花や日本庭園の展示などを行うことにより日本の伝統文化をPRします。

②植木伝統樹芸技術の継承・普及

- ・植木伝統樹芸士及び銘木の認証により、世界に誇る本県の造形技術を維持・継承を図ります。
- ・伝統樹芸の実演会など、伝統樹芸士による造形技術の発信、PRでその魅力を発信し認知度向上を図ります。

《関係者に期待される役割》

関係者	期待される役割
生産者、農業団体	・実需者への植木の生産情報の発信 ・花育活動への協力、需要拡大のためのPR強化 ・伝統的な生産技術や造形技術の継承 など
市場・小売	・花育の実施、協力、需要拡大のためのPR強化など
伝統文化団体	・生け花、日本庭園などの伝統文化の普及啓発 など ・花育の実施、協力

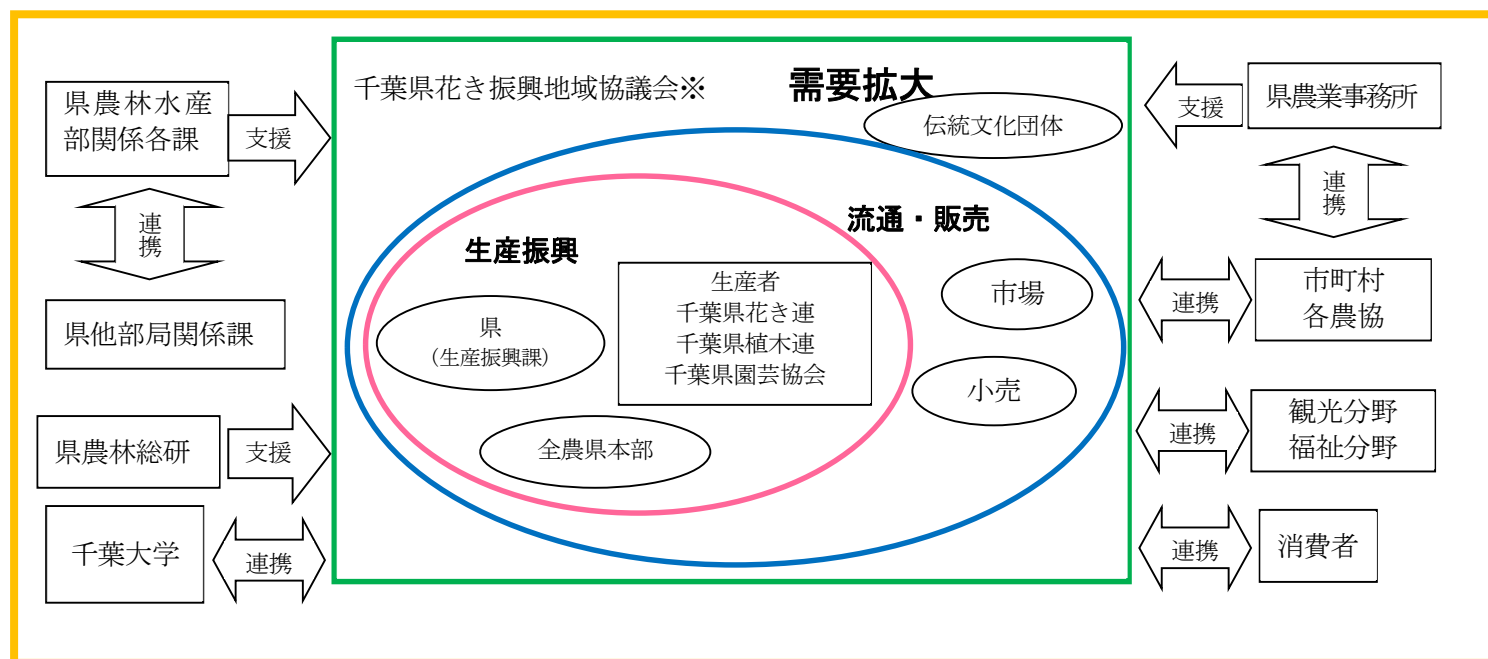
6 推進体制

(1) 関係団体との連携による推進

本県の花植木の振興に当たっては、生産・流通・小売・伝統文化団体・行政などで構成する「千葉県花き振興地域協議会」を核に、花植木業界が一体となって取り組みます。

(2) 他分野の関係者との連携による推進

観光や福祉などの他分野との緊密な連携を推進し、県産花植木への理解醸成を図ります。



千葉県の花植木振興

※千葉県花き振興地域協議会の構成団体

- 生産：千葉県花き園芸組合連合会
千葉県植木生産組合連合会
公益社団法人千葉県園芸協会
全国農業協同組合連合会千葉県本部
- 流通：株式会社第一花き柏支社
- 小売：一般社団法人JFTD千葉支部
- 文化：千葉県茶華道協会
- 行政：千葉県

7 品目別の振興方向

(1) 切り花

品目名	振興方向	主な生産地域
切り花 (431ha) 116億円 (12年目標) 122億円	<p>【高品質・安定生産】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低コスト耐候性ハウスの導入や老朽化した温室等のリフォーム、多様な人材の活用を推進します。 ・需要に合わせた生産のため、スマート農業技術の導入を推進します。 ・気候変動及び夏季の異常高温による生理障害や病害虫の発生を回避・軽減する暑熱対策技術及び病害虫防除技術の開発・普及に取り組みます。 ・低コスト化を図るため、省エネルギー型施設への転換やセーフティネットの構築を支援します。有害鳥獣による被害軽減対策を推進します。 ・特産品目の産地維持や有望育成品種の維持に向けた取組を支援します ・産地を支える担い手の育成を図るため、個々の生産者の課題解決力強化、栽培技術習得、経営改善の取組を支援します ・新たな担い手の確保と育成に向けた遊休農地・ハウス活用を推進します。 <p>【流通販売体制・需要拡大対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・需要に対応できる出荷体制の強化を目指し、共選出荷体制の検討、共選共販やグループ化による産地の販売ロットの拡大を支援します。 ・出荷情報の電子化・早期発信を支援します。 ・日持ちが向上する鮮度保持技術の開発・普及を促進します。 ・成田空港を有する本県の強みを生かし、切り花の輸出を促進します。 ・新たな販売の機会を創造するため、生産者と実需者が情報交換できる場づくりを支援します。 ・「2027年国際園芸博覧会」開催を契機とした県産花植木のPR、魅力発信を実施し、需要喚起を行います。 ・需要拡大に向け、花育活動やPR活動を推進します。 ・花摘みなど観光資源を活用した需要拡大を推進します。 	県内全域

(2) 鉢もの・花壇用苗もの類

品目名	振興方向	主な生産地域
鉢もの・花壇用 苗もの類 (180ha) 79億円 (12年目標) 82億円	<p>【高品質・安定生産】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・低コスト耐候性ハウスの導入や老朽化した温室等のリフォーム、多様な人材の活用を推進します。 ・多様な需要に対応できる新たな栽培方法、出荷形態等の普及に努めます。 ・需要に合わせた生産実現のため、スマート農業技術の導入を推進します。 ・高温障害や病害虫の発生を回避・軽減する暑熱対策技術及び病害虫防除技術の開発・普及に取り組みます。 ・低コスト化を図るため、省エネルギー型施設への転換やセーフティネットの構築を支援します。 ・担い手の高度な安定生産技術の導入を支援するとともに、高い経営能力の構築を支援します。企業的経営体の育成を図ります。 <p>【流通販売体制・需要拡大対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・流通コストを削減するため、物流を効率化する広域的な集荷システムの構築を検討します。 ・新たな販売の機会を創造するため、生産者と実需者が情報交換できる場づくりを支援します。 ・「2027年国際園芸博覧会」開催を契機とした県産花植木のPR、魅力発信を実施し、需要喚起を行います。 ・需要拡大に向け、花育活動やPR活動を推進します。 	県内全域

(3) 植木

品目名	振興方向	主な生産地域
植木 (427ha) 出荷額 45 億円 (12 年目標) 出荷額 58 億円	<p>(輸出向け)</p> <p>【高品質・安定生産】</p> <ul style="list-style-type: none"> 植物検疫に向けた隔離栽培の効果を発揮できる施設整備と管理体制の構築を支援します。 輸出の拡大を目指し、輸出相手国の検疫条件に対応した技術開発に取り組みます。また、生産、流通体制の整備を支援します。 主力品目であるマキを害虫から守るため、防除対策を推進します。 <p>【流通販売体制・需要拡大対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 輸出の拡大を図るため、商談会への参加など、生産者団体などが販路を開拓する取組を支援します。 販路を拡大していくため、輸出相手国のニーズに合わせた樹種の生産など、新たな販路を見据えた計画生産を支援します。 造形技術の維持・継承に向け、植木伝統樹芸士及び銘木の認証を推進します。 伝統樹芸の実演会などにより、造形技術の発信・PRをします。 	海匠 山武
	<p>(国内向け)</p> <p>【高品質・安定生産】</p> <ul style="list-style-type: none"> 経営規模の拡大に向け、省力機械やかん水施設などの導入を支援します。 高温障害や病害虫発生を回避・軽減するため、暑熱対策技術及び病害虫防除技術の開発・普及に取り組みます。 技術の維持・継承に向け、幅広い樹種で銘木の認証を推進します。 <p>【流通販売体制・需要拡大対策】</p> <ul style="list-style-type: none"> 公共・建設関係の多様なニーズに応える植木販売促進のため、緑化需要に関する情報の収集や発信、販売促進に対する取組を支援します。 ホームユース向けには、国内実需者と産地とのマッチングやバイヤーが多く集まる商談会、展示会への参加など、生産者団体などが販路を開拓する取組を支援します。 国内実需者のニーズに対応した、計画的な出荷に対する取組を支援するとともに、県が育成した新品種の生産拡大を促進します。 県産植木の魅力発信、需要開拓に向けて、生産者と実需者（造園事業者、ホームセンター、ハウスメーカー、工事設計担当者等）との情報交換を実施します。 「2027年国際園芸博覧会」開催を契機とした県産花植木のPR、魅力発信を実施し、需要喚起を行います。 屋上緑化や壁面緑化、公共緑化のニーズに対応した新樹種の導入を推進します。 	千葉 印旛 海匠 山武 君津

参 考 资 料

花植木を取り巻く情勢（全国の動き）

1 生産状況

全国における花きの産出額は3,660億円で、農業産出額の3.9%を占めています。花きの産出額の内訳は、切り花類が58%、次いで鉢ものの類が26%、花壇用苗ものの類9%、花木類(植木類)が4%という構成になっています。花きの作付面積や産出額は、栽培農家数の減少に伴い、減少傾向にあります。

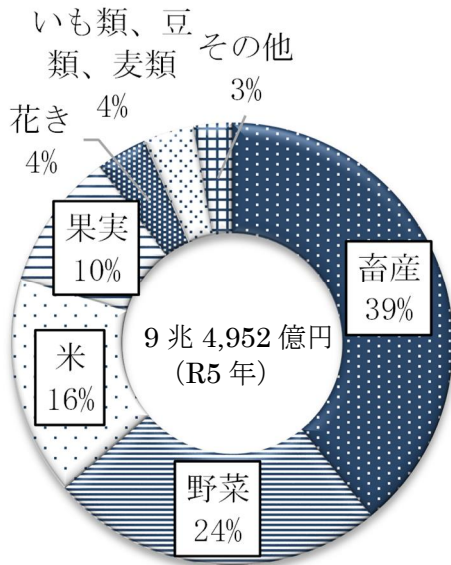


図1 農業産出額

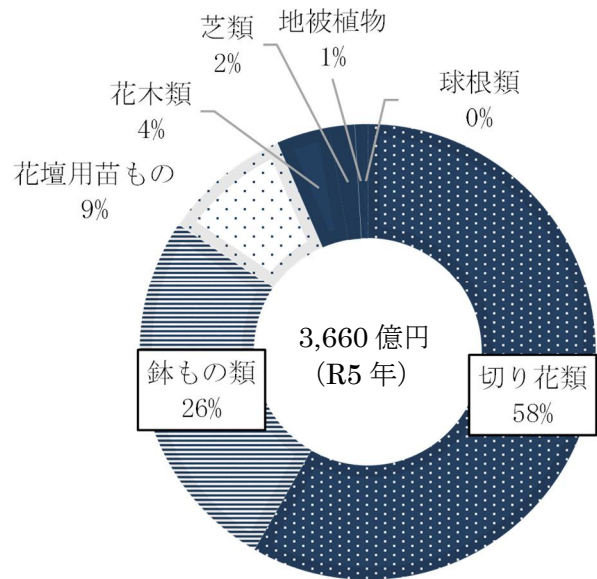


図2 花き産出額の内訳

表1 花き産出額の推移

(単位：億円)

	H12	H17	H22	H25	H30	R5	
花き産出額	5,858	4,997	3,816	3,785	3,567	3,660	
内訳	切り花類	2,682	2,462	2,158	2,101	2,024	2,133
	鉢ものの類	1,219	1,104	924	980	921	957
	花壇用苗ものの類	400	372	321	323	300	333
	球根類	53	29	29	24	17	12
	芝	78	80	67	73	75	66
	地被植物類	55	59	40	27	36	22
	花木類(植木類)	1,371	892	277	257	194	137

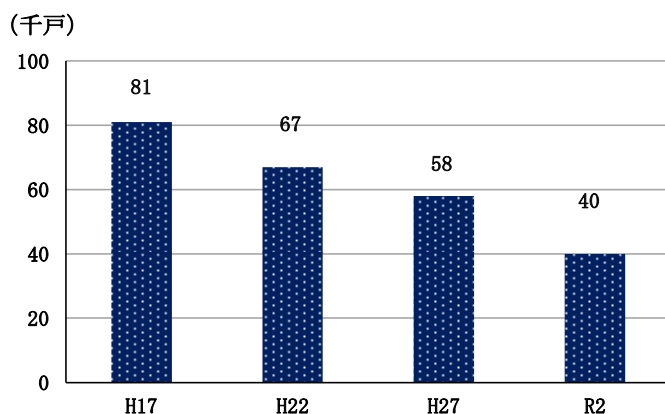
(農林水産省「生産農業所得統計」,「花き類の生産状況等調査」,「花木等生産状況調査」)

表2 花き作付面積の推移

(単位：千ha)

	H12	H17	H22	H25	H30	R5	
花き作付面積	45.5	37.9	31.4	29.6	26.3	22.3	
内訳	切り花類	19.7	17.9	16.2	15.4	14.2	12.7
	鉢ものの類	2.2	2.1	1.9	1.8	1.6	1.4
	花壇用苗ものの類	1.7	1.7	1.6	1.5	1.4	1.2
	球根類	1.0	0.6	0.5	0.4	0.3	0.2
	芝	8.4	6.9	5.6	5.7	5.2	4.5
	地被植物類	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1	0.1
	花木類(植木類)	12.4	8.5	5.6	4.7	3.5	2.2

(農林水産省「花き生産出荷統計」,「花き類の生産状況等調査」,「花木等生産状況調査」)



(農林水産省「農林業センサス」, 「花きの現状について」)

図3 花きの販売農家数の推移

【燃油価格高騰】

燃油価格は、乱高下を繰り返しているものの、近年では、上昇傾向にあり、農業経営費に占める光熱動力費の割合が大きい花き園芸の経営を圧迫しています。

表3 A重油価格の推移

年次	H26	R1	R2	R3	R4	R5	R6
単価 (円/リットル)	95.6	89.4	76.9	103.45	107.4	112.2	115.3
H21比 (%)	100	94	80	108	112	117	121

※12月の価格。農業物価統計調査

表4 農業経営費に占める光熱動力費の割合

農業 ※1	ばら	35%
	トマト	16%
	きゅうり	21%
他産業 ※2	タクシー	8%
	トラック	5%

(※1 e-Stat『農業経営統計調査 営農類型別経営統計(個別経営)(H30)』から)

(※2 農林水産省『施設園芸等燃油価格高騰対策』説明資料から)

表5 主な施設園芸品目のA重油消費量

作物	消費量 (ℓ)	(円/10a)		
		燃油代 H15年度 (47円/ℓ) ①	燃油代 R1年度 (84円/ℓ) ②	②-①
カーネーション	10,500	493,500	882,000	388,500
きゅうり	6,500	305,500	546,000	240,500
トマト	5,000	235,000	420,000	185,000
びわ	700	32,900	58,800	25,900

※燃油代は1月価格(生産振興課調べ)

※所得は、重油価格が1ℓ当たり10円上昇するごとに、促成キュウリでは6.5万円、促成トマトでは5万円、カーネーションでは11万円低下すると予想される。

2 流通の変化

国産花き類の流通は、品目・品種が非常に多く、小売構造が零細であることにより、卸売市場経由率が高く（72.8%）、また、近年では、せり、入札取引に代わり、予約相対取引が増加しています。

また、小売店（花き専門店、ホームセンター等）の販売額は大きく減少しています。

最近では、インターネットや物流センターのみの取引を行うなど、市場外取引の動きもあります。

表6 農水産物の卸売市場経由率の推移

(単位：%)

	H12	H17	H22	H27	R2	R3	R4
青果	70.4	64.5	62.4	57.5	52.2	53.9	50.5
野菜	78.4	75.2	73.0	67.4	62.6	62.7	59.2
果実	57.6	48.3	45.0	39.4	33.1	37.1	34.1
水産物	66.2	62.9	56.0	52.1	45.7	45.6	43.2
花き	79.1	82.8	83.4	76.9	74.1	74.8	72.8

(農林水産省「卸売市場データ集」)

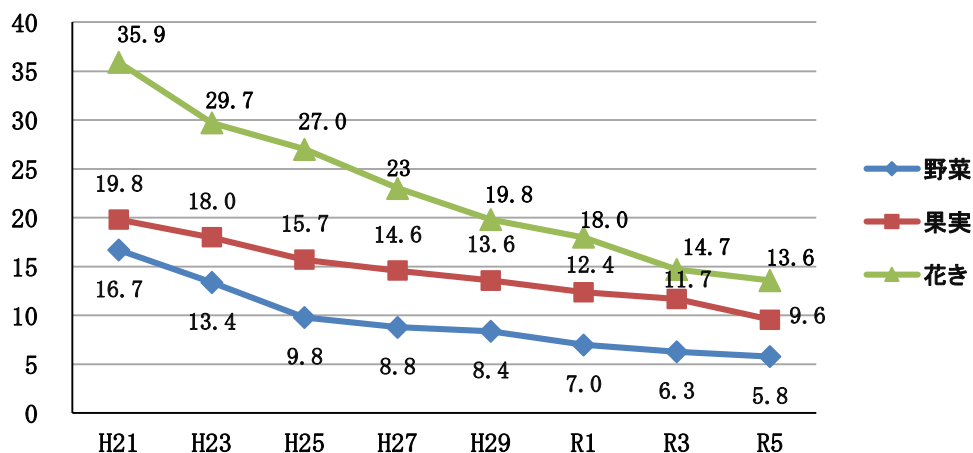


図4 せり・入札取引の割合の推移 (農林水産省「卸売市場データ集」)

表7 国内主要花き品目別卸売価格の推移

(単位：円/本、鉢)

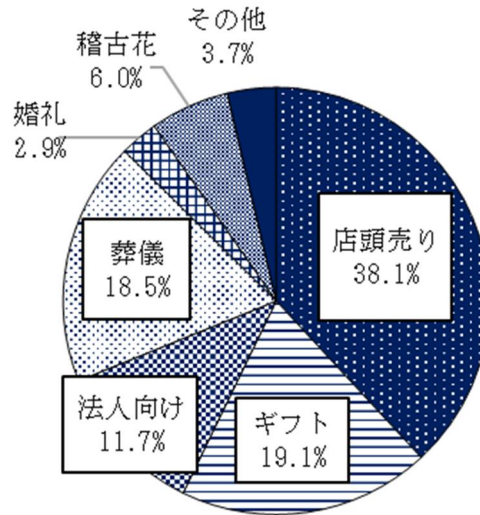
	H22	H27	H30	R3	R6
輪ギク	67	68	66	63	75
カーネーション	46	51	46	52	60
ばら	72	78	78	92	102
鉄砲ゆり	97	95	99	110	121
シクラメン	804	801	824	930	954
エラチオールベゴニア	370	386	362	379	456

(東京都中央卸売市場統計情報)

表8 花き等取扱業における販売金額の推移（全国値）

実態分類	項目	年間販売金額（億円）		H19に対するH26 の伸び率（%）
		H19	H26	
小売店合計		8,081	5,195	64.3
うち	花き専門店	5,724	3,683	64.3
	その他	2,354	1,512	64.2
	うち ホームセンター	1,202	571	47.5

（経済産業省「商業統計」）



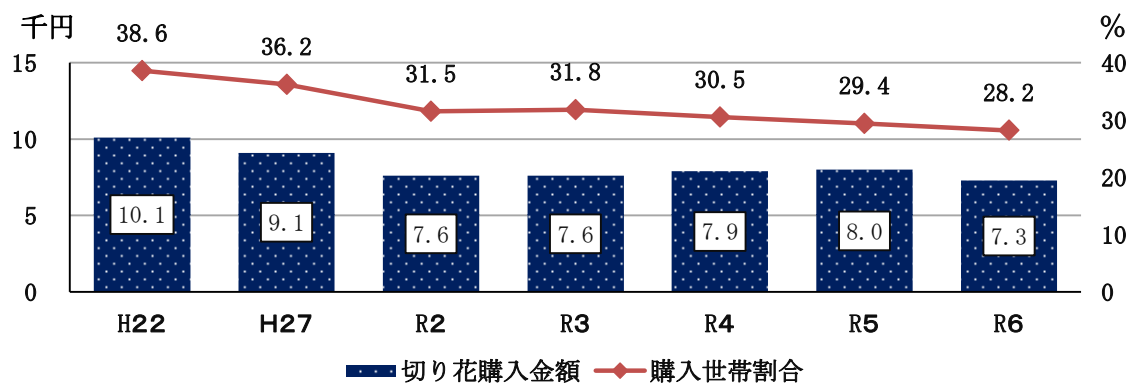
（JFTD 白書（2019年度））

※有効回答 366 の平均値を算出

図5 生花店における花き販売構成比

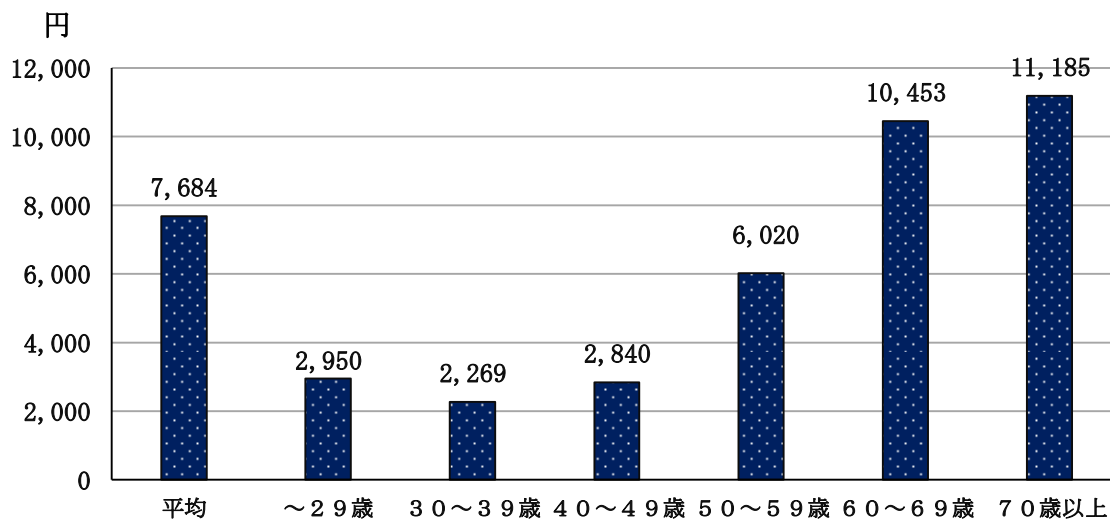
3 消費の推移

切り花の購入金額は、漸減傾向となっています。
 世帯主の年齢別で見ると、49歳以下の世帯で購入金額が低くなっています。
 花を購入しない理由は、買う習慣がない、手入れが大変、などが挙げられている他、小さい頃花が身近になかった人は将来の購入率が低くなっています。



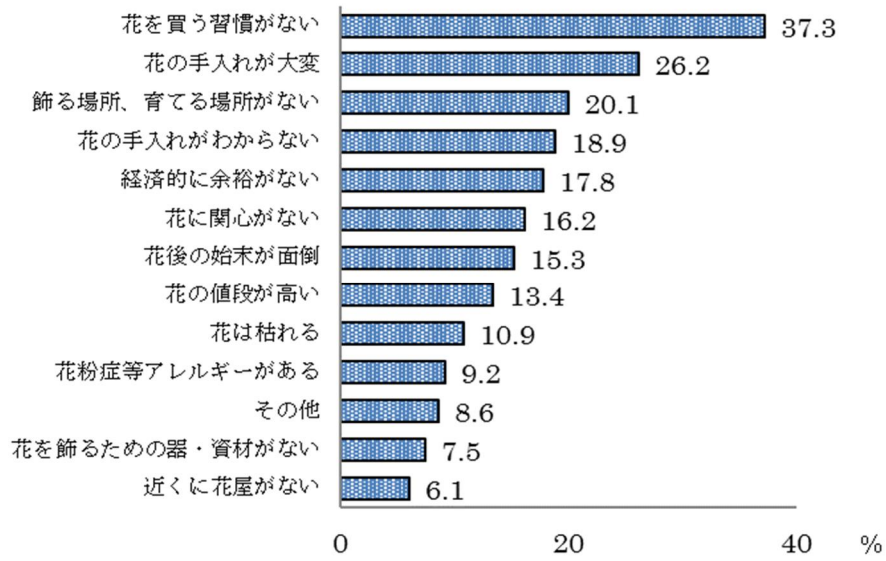
(総務省「家計調査年報」)

図6 切り花購入金額と購入世帯割合



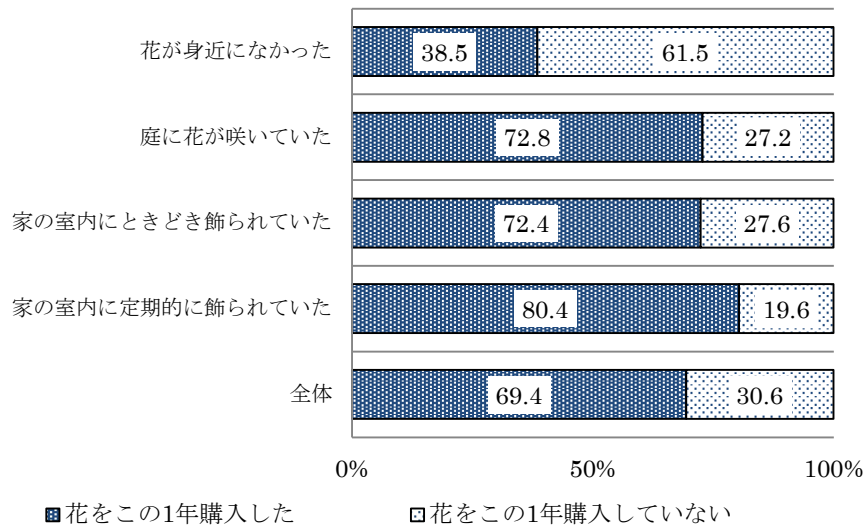
(総務省「家計調査年報」)

図7 世帯主年齢別切り花年間購入額 (令和6年)



(東海花き普及・振興協議会調査(H20))

図8 花を購入しない理由 (複数回答可) n=359



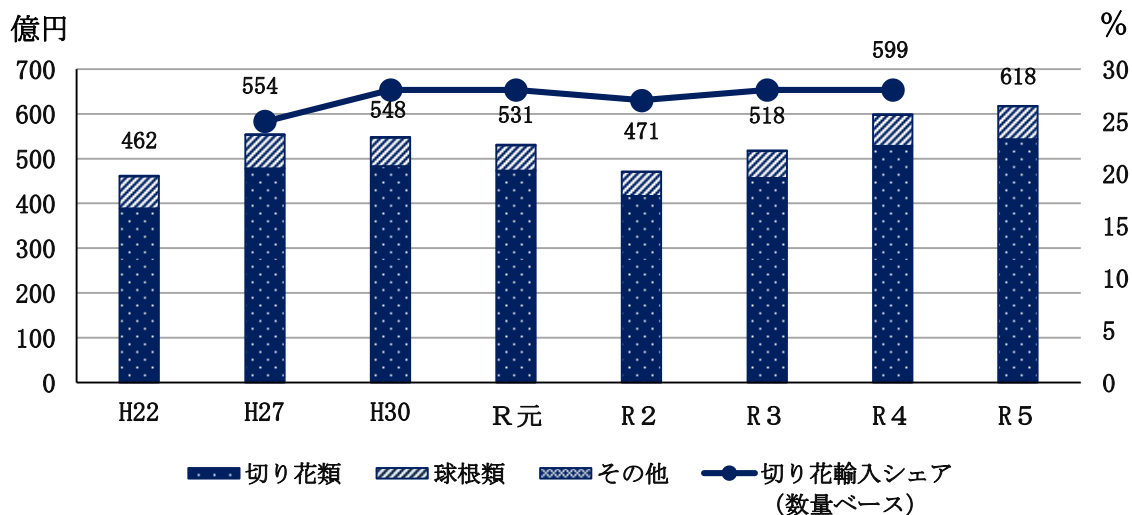
(MPS フローラルマーケティング(株) 「花と環境に関する調査」(H20))

図9 子供の頃の花の経験と花の購入の関係

4 輸出入の動向

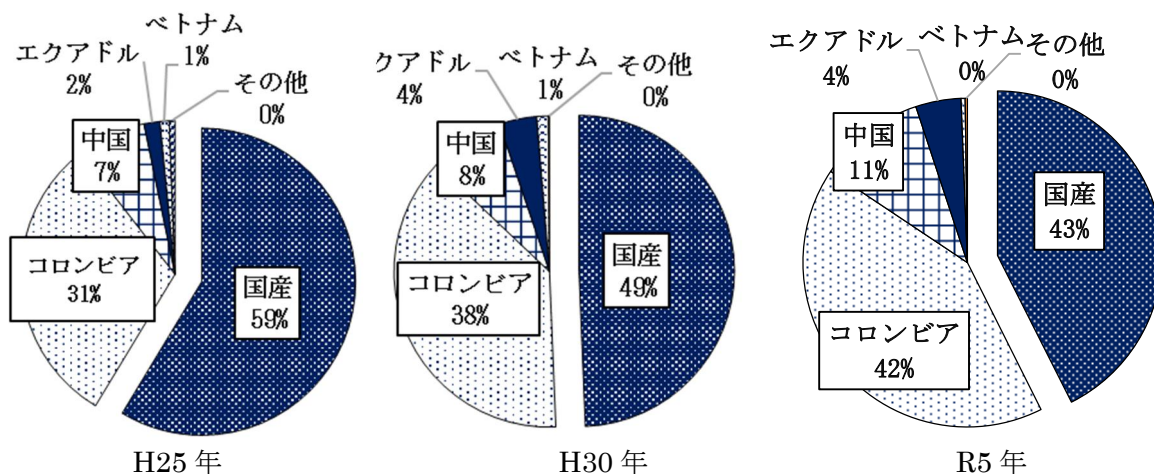
【輸入】

花きの輸入は、切り花類が大半を占め、コロナ禍で減少したものの、依然として増加傾向にあります。主な相手国は、カーネーションについては、コロンビア、中国、エクアドルなどがあげられます。



(財務省「貿易統計」)

図10 花き輸入額の推移

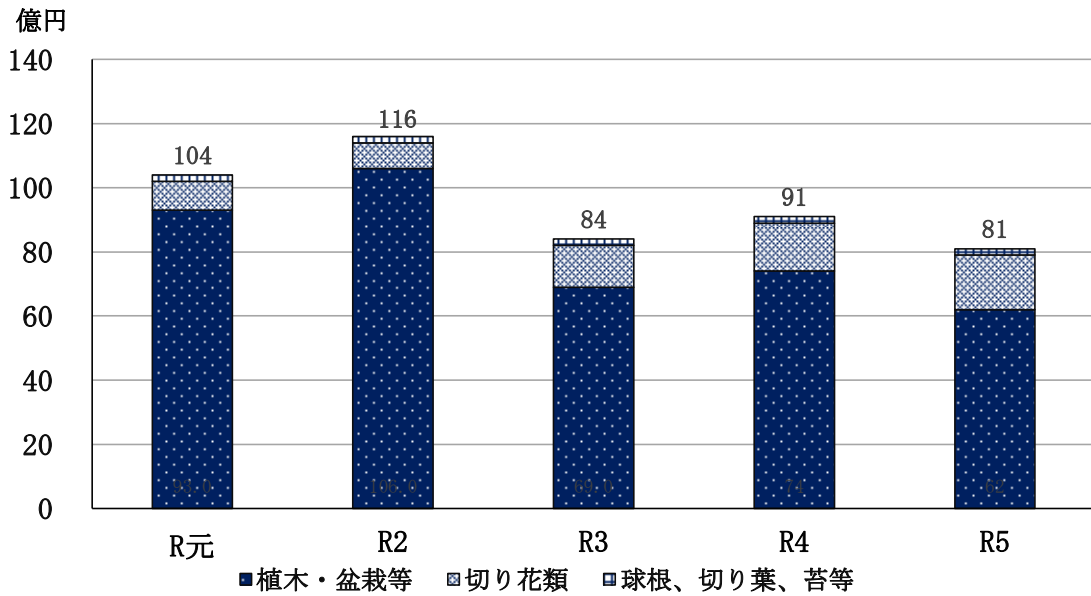


(農林水産省「花き生産出荷統計」, 「植物検疫統計」)

図11 カーネーションの輸入割合の推移 (金額ベース)

【輸出】

令和5年の花きの輸出額は81億円で、このうち大部分が、植木・盆栽となっています。



(財務省「貿易統計」)

図12 花き輸出額の推移(種類別)

発行：令和8年3月

発行者：千葉県（農林水産部生産振興課）

〒260-8667 千葉市中央区市場町1-1

電話 043-223-2871